



青木 穠子

AOKI Joko

代表作

『木霊』(1913 年)
『持統天皇』(1964 年)
『青木 穠子遺歌集』(1975 年)
『芳舎漫筆』(1975 年)

ほか多年に渡る日記を収蔵

活動略歴

- 1884 年 名古屋市西区下長者町（現在の中区錦）に生まれる。母は文芸家だった白川琴水、9歳で初めて短歌を作り御歌所寄人大口鯛二に和歌を学ぶ。
- 1909 年 尾張秤所・守随錫と結婚、翌年青鞆社に入社、のちに脱退した。
- 1918 年 1 月宮中歌会に入選、翌年「胎動」創刊委員。
- 1920 年 短歌会このはな会主宰となり、翌年「このはな」を発刊。（のち「明鏡」に改称）
- 1923 年 名古屋短歌会（のち中部短歌会）創立時より会員となる。
- 1945 年 夫を亡くし、名古屋大空襲で自宅消失。高山に疎開後常滑に転居し女学校で書道や短歌を教える。
- 1947 年 下長者町旧宅跡に仮屋を建て、都心芳舎と号する。「明鏡短歌会」を始める。
- 1948 年 中部日本歌人会副委員長に就任。
- 1964 年 都心芳舎跡に短歌会館を建てて名古屋市に寄付。愛知県知事表彰。
- 1971 年 短歌会館で没。

参考／『愛知近現代女性史人名事典』
愛知女性史研究会／編集（2015 愛知女性史研究会 刊）
『芳舎漫筆』
青木 穠子・著（1975 名古屋市教育委員会 刊）

AOKI Joko (1884– 1971/ Tanka Poets)

Born in Nagoya City. She began composing Tanka at a young age and published many in the Seito Society's pamphlet, Seito. Her works were selected for the Imperial Tanka Poetry Contest.

Although she lost her family and husband to illness and war, she continued to preside over a women's tanka club and mentor the next generation.

She used her personal fortune to establish the Tanka Hall on the site of her former home and donated it to the city of Nagoya. She also established the Aoki Library within the library, using her own collection of books. She served as vice-chairman of the Chubu Japan Poets Association.

ジャンル / 短歌

Tanka (tanka poem)

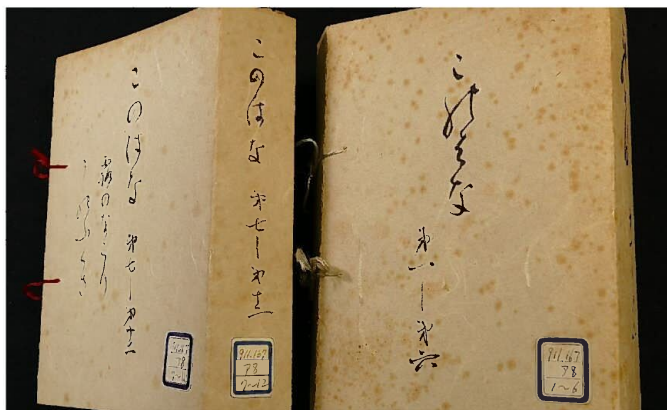
名古屋市収蔵の資料

／青木 穠子

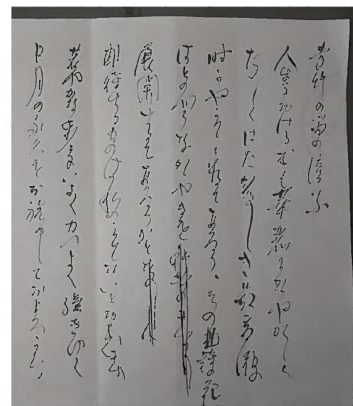
(一部掲載；収蔵先 名古屋市短歌会館)

Collection related to AOKI Joko in Nagoya City.
Storage location: Nagoya Tanka Hall.

←短歌会館竣工式の集合写真。当日の参加者が多かったため、2枚撮った。写真裏面には「短歌会館 竣工式にて 39. 10.」の覚書あり。最前列中央に青木氏、左に浅野梨郷氏、右に春日井瀧氏。



↑「このはな」編集発行人・発行所が同住所（西区下長者町3丁目＝現在中区栄）、青木氏の住所である。写真左の綴りの冊子は第1～第6号まで綴り。



↑春日井建氏の歌集出版記念会にて青木氏が祝辞を述べることになり、とっさに包装紙の裏に筆ペンでしたためたものと推測される。

上記資料の閲覧を希望される方は、[文化芸術推進課](#)または[名古屋市短歌会館](#)までお問い合わせください。
なお、学術研究または教育普及目的の場合にのみ閲覧が可能で、所定の手続きが必要です。